

淡江大学(台湾)交換留学

現代政策学部 3年 松葉 爽

9月4日に日本を発ってから、早くも1か月が過ぎました。この長いようで短い期間では驚くほど濃密で、感動に溢れた充実した毎日を送ることが出来てとても満足しています。留学する以前は、台湾で友人が作れるか、周りに馴染めるかとても不安でしたが、そのような心配の甲斐なく、親切的寮に住む台湾人の学生と、様々な国から集まった留学生とすぐに打ち解けられました。

国籍は様々で、台湾・日本・韓国・インド・インドネシア・タイ・モンゴルなどのアジア圏から、アメリカ・ドイツ・フランス・フィンランド・メキシコなどのヨーロッパや南アメリカまで、国もバックグラウンドも様々な学生が集まるグローバルな環境で生活しています。平日には、授業が終わった後、寮のロビーや一階のレクリエーションルームに集まって談笑をしたり、映画を観たりしています。



寮の学生は皆とても優秀で、3カ国語以上を操る学生が多く、特に台湾人の学生は淡江大学内で選抜された学生が寮に住んでいるので、中国語・英語は勿論のこと、日本語を堪能に話せる学生が多い事には驚かされました。また、彼らはとても親切で面倒見が良いので、よく授業の宿題や分からないところを教えて貰ったりしていて、心から感謝しています。



ルームメートは韓国人とメキシコ人の2人で、中国語と英語を使って普段は会話をしていますが、お互いの言語である日本語や韓国語やスペイン語を教え合って会話したりしています。韓国人は日本語を話すことが出来るのですが、相手に甘えることなく、なるべく日本語で話さないように心がけています。メキシコ人とはすぐに仲良くなり、お互いを「アミーゴ」と呼び合い、一緒にご飯を食べに行ったり、平日の朝は他のメキシコ人やドイツ人やフィンランド人の友人と一緒にジムで身体を鍛えた後、授業に向かっています。

授業は週4回の中国語の授業の他に、英語で行われる経済の授業とマーケティングの授業、そして中国語で行われる世界経済の授業と日本史を受けています。先生の話す中国語は、とても速く、聞き取れないことが多いので、復習が欠かせません。また、英語は、授業では勿論のこと、寮でも日常的に使う言語なので、中国語圏に来たから中国語だけ勉強していれば良いという考えは通用せず、自分が言いたいことが中国語で相手に伝わらなかった時に、お互いの共通言語としてとても重宝するものであるため、身にしみて英語の重要性を再認識しました。中国語の授業では、クラス分けのためのスピーキングとライティングの試験があり、その結果に応じて基礎・中級・進級に分けられ、その上には読み書きと会話ともに問題なくできる学生のためのクラスがあります。2つの試験とも HSK4級レベルであれば問題なく解けるレベルになっており、簡体字での選択問題と課題作文、簡単な会話で構成されています。クラス分け後でも、自分に合ったクラスへ自由に移動することができるので、心配する必要はありません。専門科目の授業は、留学先の学科にかかわらず、留学生はすべての学年・学科の授業を受講することが可能です。これを機会に文系にかかわらず理系の授業を受けてみるのもよい経験になるでしょう。



観光は、台北 101 や士林の夜市、北投の温泉など様々な場所に行きました。台湾人の友達とビーチに行った際、たまたま凧揚げ大会が開催されていて、大小様々な凧がビーチの空を埋め尽くしているさまは壮大でした。クラブ活動では、卓球部に入り、毎週月曜日の夜 8 時から練習をしています。スポーツを通して交友を深められたらと考えて始めましたが、私は卓球があまり上手ではないので、少し不安です。また、淡江大学にはチャットコーナーと呼ばれるものがあり、淡江大学の外国語を学びたい学生と、中国語を学びたい留学生を結びつけるシステムになっています。私はこのシステムを利用して日本語学科の学生と知り合い、SNS で連絡したり、実際に会って話したりしています。これを活用して、語学力の向上が出来たらと考えています。半年の留学なので、残りの時間を大切にして勉強だけでなく、多くの思い出も作っていきたいと考えています。

